

拡

新技術・新製品等ものづくり チャレンジ企業応援事業補助金



市内企業による新製品の開発、新技術の開発等に必要な経費に対して補助します。令和5年度より、グリーン成長戦略(次ページ参照)に従って行う事業「グリーン成長事業」は補助限度額を引き上げます。

助成内容		対象経費
一般枠	<p>《補助率》 ・1/2以内</p> <p>《限度額》 ・150万円 ・200万円 ※ <small>※グリーン成長事業の場合</small></p> <p>《申請期間》 ・4月1日～7月31日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料又は副資材の購入に要する経費 ・構築物(風洞、水槽、防壁等をいう。)の購入、建造、改良、据付け、借用又は修繕に要する経費 ・機械装置若しくは工具器具の購入、試作、改良、据付け、借用又は修繕に要する経費
<p>開発試作枠 ※従業員10名未満の製造業・ソフトウェア業限定</p>	<p>《補助率》 ・1/2以内</p> <p>《限度額》 ・30万円 ・50万円 ※ <small>※グリーン成長事業の場合</small></p> <p>《申請期間》 ・随時申請</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工業所有権の導入に要する経費 ・設計委託、ソフトウェア開発委託、研究委託又は外注加工に要する経費 ・市場調査に要する経費 ・技術指導の受入れに要する経費 ・前各号に掲げるもののほか、市長が特に必要と認める経費

備考

一般枠・開発試作枠ともに、「製造業」又は「ソフトウェア業」を主たる事業として営むもので、市内に主たる工場若しくは研究所等又はソフトウェア開発の目的に使用するために設置された施設を有する中小企業者が対象。

新技術・新製品の開発をしたい

拡充枠

新技術・新製品等ものづくりチャレンジ企業応援事業補助金 「グリーン成長事業枠」

「グリーン成長事業」とは・・・

グリーン成長戦略で定められた14の重要分野に関連する新技術・新製品等の開発に向けた取り組みのことです。

2050年に向けて成長が期待される、14の重点分野を選定。

・高い目標を掲げ、技術のフェーズに応じて、実行計画を着実に実施し、国際競争力を強化。・2050年の経済効果は約290兆円、雇用効果は約1,800万人と試算。

 <p>洋上風力・太陽光・地熱</p> <ul style="list-style-type: none"> 2040年、3,000～4,500万kWの案件形成(洋上風力) 2030年、次世代型で14円/kWhを視野(太陽光) 1 	 <p>水素・燃料アンモニア</p> <ul style="list-style-type: none"> 2050年、2,000万トン程度の導入(水素) 東南アジアの5,000億円市場(燃料アンモニア) 2 	 <p>次世代熱エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 2050年、既存インフラに合成メタンを90%注入 3 	 <p>原子力</p> <ul style="list-style-type: none"> 2030年、高温ガス炉のカーボンフリー水素製造技術を確立 4 	 <p>自動車・蓄電池</p> <ul style="list-style-type: none"> 2035年、乗用車の新車販売で電動車100% 5 	 <p>半導体・情報通信</p> <ul style="list-style-type: none"> 2040年、半導体・情報通信産業のカーボンニュートラル化 6 	 <p>船舶</p> <ul style="list-style-type: none"> 2028年よりも前倒してゼロエミッション船の商業運航実現 7
 <p>物流・人流・土木インフラ</p> <ul style="list-style-type: none"> 2050年、カーボンニュートラルポートによる港湾や、建設施工等における脱炭素化を実現 8 	 <p>食料・農林水産業</p> <ul style="list-style-type: none"> 2050年、農林水産業における化石燃料起源のCO₂ゼロエミッション化を実現 9 	 <p>航空機</p> <ul style="list-style-type: none"> 2030年以降、電池などのコア技術を、段階的に技術搭載 10 	 <p>カーボンサイクル・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 2050年、人工光合成プラを既製品並み(CR) ゼロカーボンスチールを実現(マテリアル) 11 	 <p>住宅・建築物・次世代電力マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 2030年、新築住宅・建築物の平均でZEH・ZEB(住宅・建築物) 12 	 <p>資源循環関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 2030年、バイオマスプラスチックを約200万トン導入 13 	 <p>ライフスタイル関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 2050年、カーボンニュートラル、かつレジリエントで快適な暮らし 14

＜経済産業省HP：2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略より抜粋＞

「グリーン成長戦略」とは・・・

日本が2050年カーボンニュートラルを目指し、経済産業省が中心となり、関係省庁と連携して策定した「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」のことです。

グリーン成長戦略では、産業政策・エネルギー政策の両面から、成長が期待される14の重要分野について実行計画を策定し、国として高い目標を掲げ、可能な限り、具体的な見通しを示しております。

グリーン成長戦略（概要）

（令和3年6月18日策定）

- 温暖化への対応を、経済成長の制約やコストとする時代は終わり、「成長の機会」と捉える時代に突入している。
- 実際に、研究開発方針や経営方針の転換など、「ゲームチェンジ」が始まっている。この流れを加速すべく、グリーン成長戦略を推進する。
- 「イノベーション」を実現し、革新的技術を「社会実装」する。これを通じ、2050年カーボンニュートラルだけでなく、CO₂排出削減にとどまらない「国民生活のメリット」も実現する。

＜経済産業省HP：2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略より抜粋＞